

3 現大阪府スポーツ推進計画の課題(全般)

◆ライステージに応じたスポーツ機会の創造

○働く世代におけるスポーツ機会の充実

- ・スポーツ実施率が低く、目標達成が困難。(5頁参照)
(H28目標:50% ⇒ H27実績:40%)
- ・特に、30～50歳代の働く世代の実施率が他世代に比べ低い。(6頁参照)
(男性:40代以上は70%以下。他世代は70%以上)
(女性:30～50代は50%以下。他世代は55%以上)

○地域スポーツクラブの活性化

- ・総合型地域スポーツクラブの設置数は年々増加しているが、クラブ活動の継続・維持が課題
- ・府内設置数(H24:53箇所、H25:56箇所、
H26:57箇所、H27:58箇所、
H28:59箇所<府内28市町に設置>)

○スポーツを支える人材の育成

- ・スポーツボランティア数は減少傾向
(H25:254人、H26:213人、H27:209人)
- ・登録者の高齢化

◆スポーツの活力を生かした都市魅力の創造

○国際大会、全国大会の招致

- ・2007年世界陸上以来、新たな世界的な競技大会が開催されていない。
- ・大阪で長年開催されたテニス・デビスカップ(男子国別対抗戦)や水泳・ジャパンパラ競技(障がい者スポーツ水泳日本大会)の府域外への流出(8頁参照)
 - ※デビスカップ(H23～三木市へ)
 - ※ジャパンパラ競技(H27～東京へ)
- ・オリ・パラ等事前キャンプ誘致、ホストタウン登録の推進

○大規模スポーツイベント等の開催

- ・ラグビーワールドカップ2019東大阪市花園大会の広報・周知策
- ・関西WMG大会への広報・周知策
- ・スポーツ資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

○トップアスリート等が府民とふれあう機会の充実

- ・小学生以外(働く世代など)への広がりがない。
- ・府域全域への広がりがない
- ・野球やサッカーなど球技に偏っている。

◆課題（「大阪府スポーツ推進計画」における目標指標）

項目	目標(平成28年度末)	平成24年度	平成25年度
■大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合(大阪府「オンリーワン都市調査(インターネット調査)」)	50%	32. 3%	26. 4%
■成人の週1回以上のスポーツ実施率(おおさかQネット「府民の運動・スポーツ」に関するアンケート)	50% 65%(国のスポーツ基本計画)	平成25年1月調査 40. 8%	平成26年2月調査 39. 4%
■大規模スポーツイベントの応募者数、観客数	警察をはじめとする関係者との調整が必要で、長期目標にはなじまないため、前年度の実績を踏まえ、さらなる魅力を付加した事業計画全体の中で数値を決定	第2回大阪マラソン(H24.11.25) 応募者数 参加者数 マラソン 145,254人 28,343人 チャレンジラン 10,228人 2,115人 観客数 1,188,000人	第3回大阪マラソン(H25.10.27) 応募者数 参加者数 マラソン 143,351人 29,112人 チャレンジラン 8,059人 2,137人 観客数 1,250,000人
■児童(小学校5年生)を対象とした運動の実施率(週3日以上)	60%(男子) 35%(女子)	54. 2%(男子) 28. 2%(女子)	52. 6%(男子) 25. 9%(女子)
■府内市町村立小学校のうち、体育授業以外で継続的に体力向上の取組を行う小学校の割合	75%	68. 3%	75. 8%
■大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数	恒常的に1,000名を上回る参加者数	914名	918名

項目	平成26年度	平成27年度
■大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合(大阪府「オンリーワン都市調査(インターネット調査)」)	28. 1%	調査中
■成人の週1回以上のスポーツ実施率(おおさかQネット「府民の運動・スポーツ」に関するアンケート)	平成27年2月調査 40. 3%	平成28年2月調査 40. 0%
■大規模スポーツイベントの応募者数、観客数	第4回大阪マラソン(H26.10.26) 応募者数 参加者数 マラソン 137,768人 29,942人 チャレンジラン 7,705人 2,039人 観客数 1,300,000人	第5回大阪マラソン(H27.10.25) 応募者数 参加者数 マラソン 130,975人 30,459人 チャレンジラン 6,839人 1,854人 観客数 1,320,000人
■児童(小学校5年生)を対象とした運動の実施率(週3日以上)	文部科学省調査(項目削除)	文部科学省調査(項目削除)
■府内市町村立小学校のうち、体育授業以外で継続的に体力向上の取組を行う小学校の割合	79. 5%	82. 1%
■大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数	910名	904名

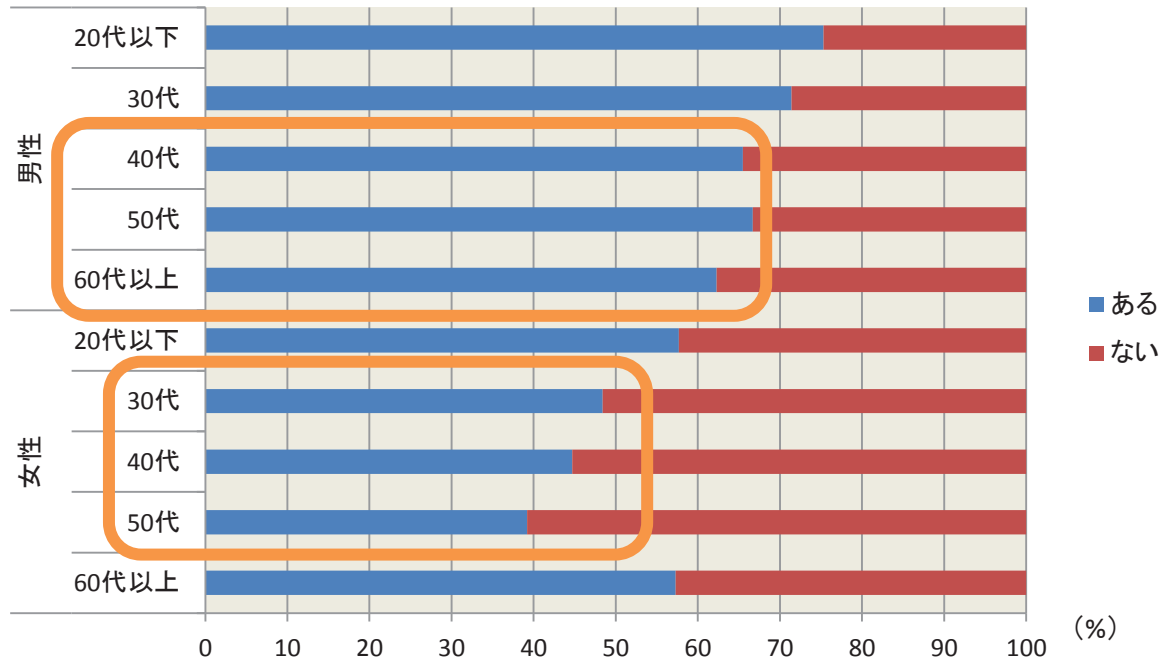
課題（スポーツ実施率が低い）

（性別・年代別から見た運動・スポーツ実施率）

（大阪府）

男性は40歳代以上が70%以下、女性は30歳代～50歳代が50%以下と、働き世代や子育て世代のスポーツ実施率が他世代に比べ低い。

		この1年間に、運動・スポーツを行ったことがありますか。		
		ある	ない	合計
男性	20代以下	73	24	97
		75.3%	24.7%	100%
	30代	65	26	91
		71.4%	28.6%	100%
	40代	55	29	84
		65.5%	34.5%	100%
女性	50代	46	23	69
		66.7%	33.3%	100%
	60代以上	91	55	146
		62.3%	37.7%	100%
	20代以下	56	41	97
		57.7%	42.3%	100%
女性	30代	45	48	93
		48.4%	51.6%	100%
	40代	38	47	85
		44.7%	55.3%	100%
	50代	29	45	74
		39.2%	60.8%	100%
女性	60代以上	94	70	164
		57.3%	42.7%	100%



（出典）平成28年2月 おおさかQネット調査

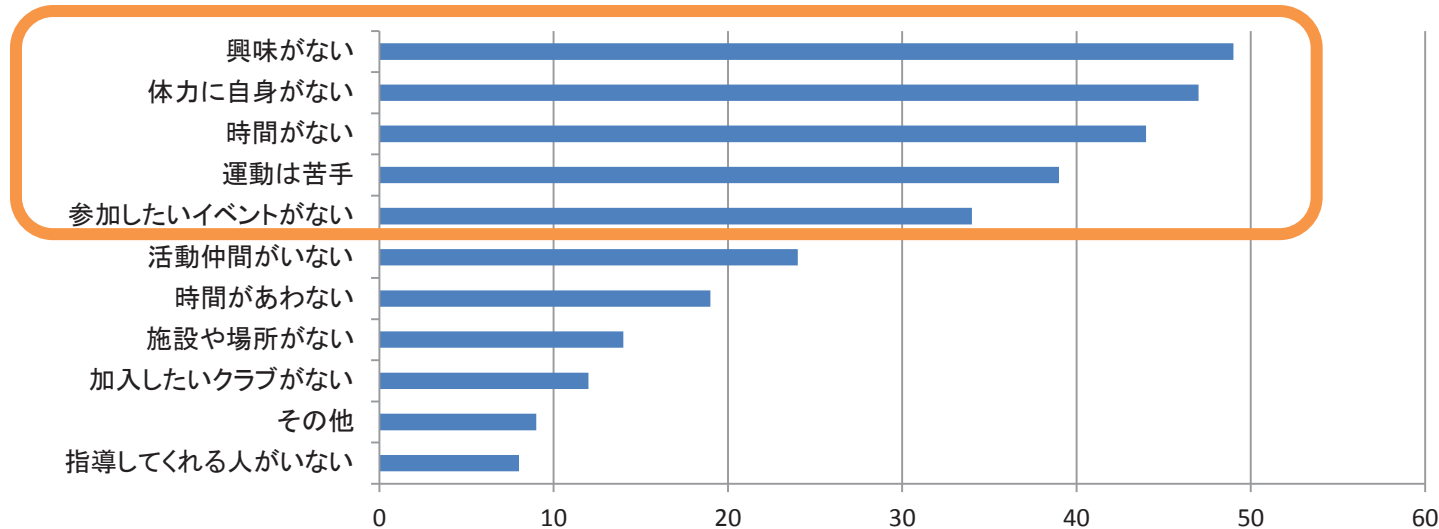
◆他府県のスポーツ実施率状況（週1回以上の実施）※スポーツ基本計画（国）：65%程度目標（3人に2人）

東京都	神奈川県	福岡県	香川県(Min.)	鹿児島県(Max)	大阪府
53.9%(H24)	42.2.5%(H22)	36.3%(H23)	26.3%(H22)	66.8%(H23)	40.0%(H27)

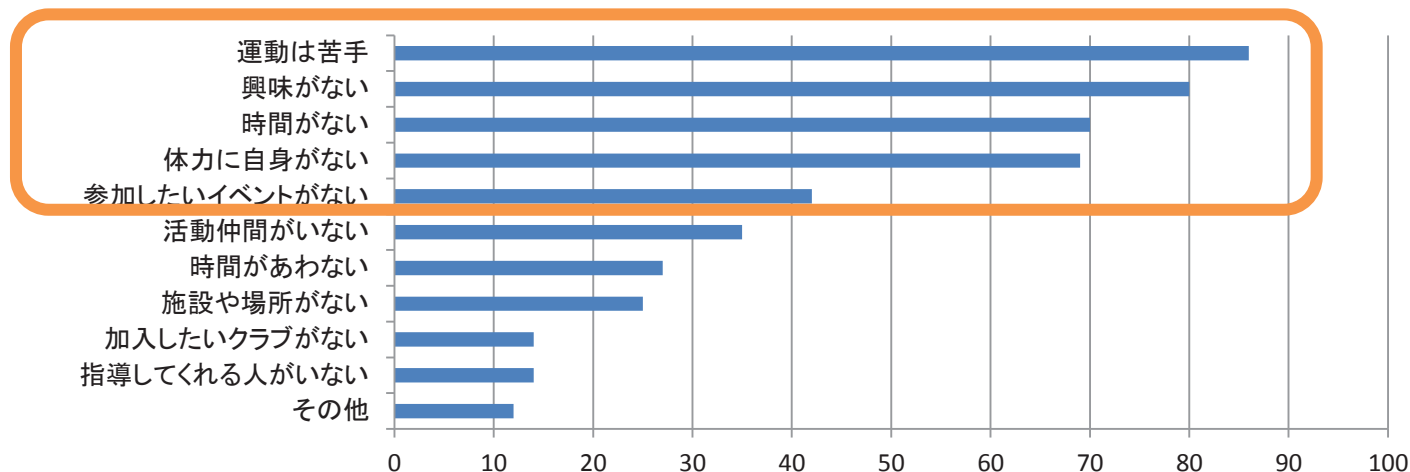
（出典）平成27年4月：地域スポーツに関する基礎データ集（文部科学省）

課題（運動・スポーツの非実施理由）

運動・スポーツの非実施理由（男性） 単位：人



運動・スポーツの非実施理由（女性） 単位：人



府内で開催した夏季オリ・パラ競技関連の主な国際的な大会（過去10年）

（参考）

長年にわたり大阪を代表する大会であっても、競技団体のニーズに合致しなければ他都市に大会を持っていかれることになる。

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
大阪国際女子マラソン （大阪市 1982～）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
世界スーパージュニアテニス （大阪市 1996～）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
世界陸上（大阪市）		○								
バレーボールW杯等（大阪市含む全国10数会場）	○	○		○		○	○	○		○
自転車・ツアーオブジャパン （堺市含む全国6地域 1996～）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際BMX大会（堺市）				○						
トランポリンW杯（熊取町）			○							
テニス・デビスカップ （門真市）	○	○	○	○	○	2011から施設整備した三木市へ				
水泳・ジャパンパラ競技大会 （門真市 1998～）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国際車椅子バスケットボール （大阪市 2003～）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FIFAクラブワールドカップ （大阪市・横浜市）										○
リオ五輪女子サッカーアジア最終予選 （大阪市）										○

2015から東京へ

4 大阪市のスポーツをめぐる現状、課題

【大阪市のスポーツをめぐる現状、主な課題】

【するスポーツ】

週に1回以上の実施率は36.6%（24年度調査）であり、全くしない、年1,2回程度を合わせると、スポーツ未実施率は40%となる。スポーツ実施率向上のためには、時間がない等の理由によりスポーツしたいができない層や、スポーツに関心がない層へのアプローチが必要である。

【みるスポーツ】

これまで大規模な国際競技大会（2002年FIFAワールドカップ、2007年世界陸上等）を数多く開催してきた。昨年度はFIFAクラブワールドカップやリオ五輪アジア予選女子サッカー大会を開催に合わせて、子ども招待事業を実施し、スポーツの見る機会をつくったが、認知度等における市民への浸透という点では不十分であることや、「みるスポーツ」から「するスポーツ」へ好循環させることを、より意識していく必要がある。

【ささえるスポーツ】

大阪マラソンは一万人のボランティアに支えられる大会として認知されつつあるが、海外選手への通訳対応等、国際スポーツ大会で大阪の良さをアピールできるボランティア人材の発掘や育成が必要。本市もスポーツボランティア登録制度を有しているが、高齢化が進んでいることや、活動の場の創出が課題である。

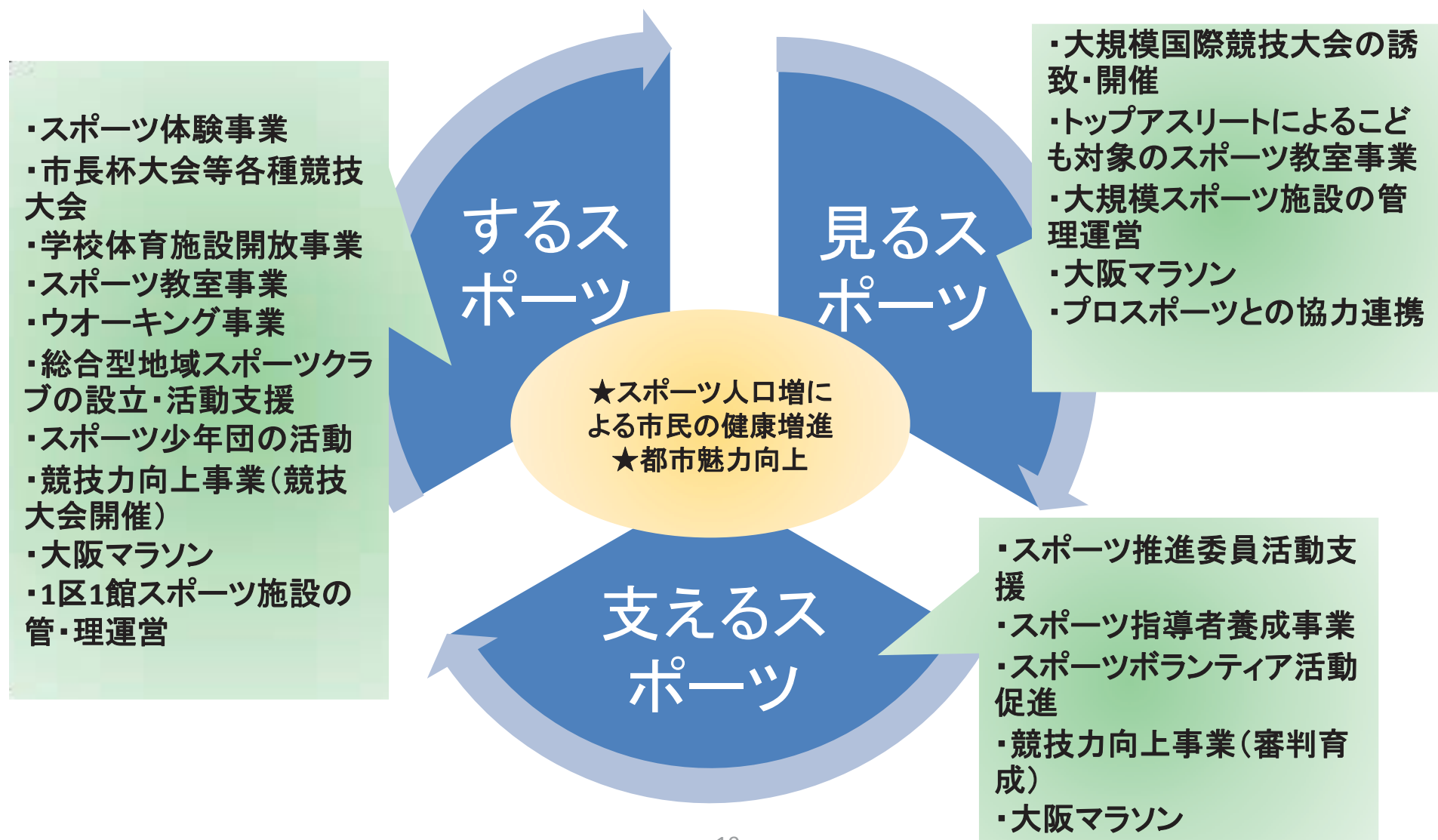
【スポーツ施設】

ヤンマースタジアム長居は、整備から相当期間が経過しており、今後、設備の老朽化や陳腐化が進展していくことから、ヤンマースタジアム長居をはじめとする施設の新たな魅力創造が必要である。

各区に整備されているスポーツセンター、屋内プールについては、市政改革プランの統合方針において、箇所、時期等は先送りされている。様々な観点から持続可能な施設のあり方や施設の魅力創造が必要である。

4-1 大阪市のスポーツ事業について

するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツの好循環により、市民のスポーツ実施率向上や都市の魅力向上につなげる



5 スポーツを取り巻く国や府の現状

【国】今後の地域スポーツの推進方策に関する提言(H27.6)より<抜粋> (基本的な方向性)

人口減少、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化が急速に進む中、スポーツに期待される役割や機能が拡大。健康寿命の延伸、地域コミュニティの再生、地域経済の活性化等につながるもので、地域のスポーツ環境を整備し、国民のスポーツ参画を促進することが重要。

【府】まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）(H28.3)より<抜粋>

Ⅱ人口減少・超高齢社会においても持続可能な地域づくり

基本目標③：誰もがいきいきと活躍できる「まち」をつくる （１）健康寿命の延伸

高齢化が急速に進展する中、ますます増加が予想される医療費の適正化を進めていくためには、健康寿命の延伸を図る必要がある。

Ⅲ東西二極の一極としての社会経済構造の構築

基本目標⑥：定住魅力・都市魅力を強化する （２）都市魅力の創出發信

世界的なスポーツイベントやトップアスリートなど大阪が有する豊富なスポーツ資源を積極的に活用し、観光集客や大阪の活性化を推進。